

評価細目の第三者評価結果

（障害者福祉サービス分野①）

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ－１ 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－１－（１） 理念、基本方針が確立・周知されている。		
Ⅰ－１－（１）－① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	運営理念と基本方針は、パンフレット・重要事項説明書等に謳われており、周知に努めている。新しく入職した職員については小論文や誓約書の提出をもって理念の浸透を図っている。

Ⅰ－２ 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－２－（１） 経営環境の変化等に適切に対応している。		
Ⅰ－２－（１）－① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	法人における会議形態が本年度より変更となり、職掌ごとに情報共有と交換ができるようになってきている。関係諸団体への研修参加とあわせて運営環境の把握に役立てられている。
Ⅰ－２－（１）－② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	来年度に控える行政との指定管理契約の更新を先ずの運営課題として捉えている。入所施設の設置等法人における将来構想についても検討がなされている。

Ⅰ－３ 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－３－（１） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
Ⅰ－３－（１）－① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	短期・中期・長期に分けられた中長期計画が策定されている。短期計画の見直し時期となっており、これに合わせて全体の修正を図る意向をもっている。
Ⅰ－３－（１）－② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	行事、各種活動、委員会等の計画が掲載された事業計画が策定されている。多様な活動と整備された組織を理解できる内容となっている。
Ⅰ－３－（２） 事業計画が適切に策定されている。		
Ⅰ－３－（２）－① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	施設長は自身が豊富な現場経験を有することから職員からの意見をくみ上げることを意識した運営に努めている。職員会議等の機会を利用し、事業計画や運営方針説明に努めている。
Ⅰ－３－（２）－② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a	年度初めに父母会にて計画や変更の説明にあたっている。外出・宿泊行事の変更については理解が得られるよう説明に努めている。家族状況の変化への対応が今後の課題として認識されている。

Ⅰ－４ 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
Ⅰ－４－（１） 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		

I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	各種活動、計画については管理職の考察、グループ会議での確認等を経ながら反省と改善がなされており、各種様式の変更が実施されている。権利侵害や他の事故事例等も踏まえて各種チェックも行われている。
I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b	活動や収支についての確認と検証については、強みとしての自負があるものの、支援の振り返りがウィークポイントであることを認識している。今後は年度末等時期を決めて実施することを検討している。

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	職員の分担表が作成されており、役割が明示されている。緊急時・災害時の体制と対応についても文書化と周知がなされている。
Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	a	労務について等法改正情報については外部研修への参加を通して情報収集に努めている。職員会議でも利用者や施設を取り巻く環境について説明し、多様な情報を知る機会の提供に取り組んでいる。
Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	職員間の業務負担の不均衡については是正するよう努めており、人員配置については特に配慮するよう心掛けられている。人を整えることが良いサービス提供に繋がることを認識しており、継続と改善に取り組んでいる。
Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	利用者の活動に支障をきたさないよう配慮しながら、光熱費や消耗品費の削減に努めている。資源の節約・リースの工夫など細かなことから積み上げるよう取り組んでいる。

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	業務の効率化・業務の省力化を進め、職員の定着率の向上に成功している。職員が生きがいをもって長く働いてもらえる職場環境の形成を目指している。
Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	b	キャリアパスの導入を進めており、職員がキャリアデザインを描ける体制構築に努めている。各種資格取得を奨励し、職員のモチベーションの向上を図るよう努めている。
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	時間外労働は書面をもって管理しており、適正な労務管理に努めている。また有給休暇をはじめ介護・看護休暇についても取得を奨励し、ワークライフバランスへの配慮に取り組んでいる。
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	職員面談を通して意向や希望の把握に取り組んでいる。職員自身が業務の中で目標を持てるようサポートに努めている。積極的に自分の意見が言える職員となるよう人材育成にあたっている。

Ⅱ－２－（３）－② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	法人内研修、施設内勉強会など自己研鑽の機会提供に努めており、特に外部研修については多様なテーマへの参加がなされている。アンガーマネジメント、記録の取り方、労務、スーパーバイズなど多様な参加に本施設の知識習得に対する旺盛な意欲を理解できる。
Ⅱ－２－（３）－③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	決して余裕ある職員体制とは言えない中、外部研修への積極的な派遣がなされている。経験・過去の受講歴を鑑みながら管理職により派遣の決定がなされている。実践に活かせることを主眼としており、受講後には必ず報告書の提出を義務付けている。
Ⅱ－２－（４） 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
Ⅱ－２－（４）－① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	実習生の受け入れマニュアルの設置、オリエンテーションの実施等受け入れ体制の整備がなされている。実習生の受け入れは、利用者・職員にとっても良い刺激となっており、今後も継続して協力していく意向をもっている。

Ⅱ－３ 運営の透明性の確保

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－３－（１） 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
Ⅱ－３－（１）－① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	法人においてホームページが運営管理されており、施設のページも公表されている。広報誌の掲載を予定しており、実現により施設への理解が一層深まることが予想される。
Ⅱ－３－（１）－② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	経理規程が設置されており、内部監査の実施等適正な財務・経理処理にあたっている。行政に対しても定期で報告がなされており、公的施設運営として透明性に配慮した運営がなされている。

Ⅱ－４ 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果	コメント
Ⅱ－４－（１） 地域との関係が適切に確保されている。		
Ⅱ－４－（１）－① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	小学校、自治会とは日常から交流し、温かな協力を得ている。また地域の方々には行事に招待するなど施設を理解してもらえよう取り組んでいる。
Ⅱ－４－（１）－② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	長年に渡り、外出や創作活動に対して支援団体の協力を得ており、施設への理解者として支援を得ている。今後はウォーキングへの協力なども得られるよう各種団体に働きかけていき、利用者の活動がより豊かなものとなることを思案している。
Ⅱ－４－（２） 関係機関との連携が確保されている。		
Ⅱ－４－（２）－① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	行政からの協力を得て作品展の開催がなされている。また季節の行事に参加させてもらうなど地域の関係機関とも良好な関係が築かれている。
Ⅱ－４－（３） 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ－４－（３）－① 福祉施設・事業所が有する機能を地域に還元している。	b	車いすの貸与などできうる協力を努めている。福祉避難所としての機能提供、陶芸教室の地域開放などアイデアが認められている。
Ⅱ－４－（３）－② 地域の福祉ニーズに基づく公益的な事業・活動が行われている。	b	近隣の小学校への駐車場貸与などがなされており、関係機関との友好が深められている。行政や法人と相談しながら今後の事業展開を進めるよう思案している。

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果	コメント
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	権利擁護をはじめ利用者を尊重した支援となるよう指導がなされている。また安全安心に偏り、利用者の行動を制限することのないようグループ会議等にて検討と確認に努めている。
Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a	入浴・排せつ等同性介助を基本とした支援にあたっており、利用者の自尊心への配慮に努めている。今後は更に利用者の内なる要望等を細分化し、更に寄り添う支援方法を検討していく意向をもっている。
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	施設見学、実習に対しては管理者を中心に対応し、看護師の配置、送迎、定員等の質問に対して丁寧な説明に努めている。対応窓口を一本化し、誤解のないよう「慎重な回答・統一した情報提供」となるよう取り組んでいる。
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a	重要事項説明書・契約書を使用し、利用について理解を深めてもらえるよう説明に努めている。また同意書を提出してもらい、理解の確認もなされている。
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	サービスの変更にあたっては、見学の同行などできる支援に努めている。相談支援と連携し、スムーズな移行となるよう取り組んでいる。
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	利用者を開催し、意向の把握とその反映に取り組んでいる。外泊・外出行事の変更にあっても理解が得られるよう説明に努めている。
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	重要事項説明書に苦情受付責任者・第三者委員を明示しており、あわせて外部の受付機関の案内、苦情解決規程の設置もなされている。
Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	家族とは日々の連絡ノートのやりとりにおいて要望や意見の聴取を図っている。利用者とは利用者の開催により行事の開催や工賃の設定について話し合いがなされている。
Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	利用者からの相談に対しては個別に相談を受けつけており、バスの座席等細やかに対応するよう努めている。利用者・家族の高齢化に対しては制度間の調整ほか適切な対応に取り組んでいる。
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	ヒヤリハット報告書は職員が提出しやすいよう配慮しており、報告書に対しては管理職のコメントを付している。要因分析等考察がなされており、事故防止策の徹底に努めている。
Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	インフルエンザ等の感染症対策については文書を配布するなど注意喚起に努めている。新しい感染症への対応を含め、感染症対策マニュアルの改訂を検討している。
Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	火災、地震、台風等の災害に対して避難訓練の実施がなされている。地域の避難所としても協力していく意向を示している。

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-(1) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-(1)-① 提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	リスクマネジメントのほかバスの乗降、プール、資源回収などマニュアルが整備されている。留意事項等ポイントが絞られており、新入職員にわかりやすい内容となっている。
Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	必要の都度改訂・追加をしており、マニュアルの充実化が図られている。今後は年度末に全体の見直しをするなど定期での改訂を予定している。
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画を適切に策定している。	a	全利用者に対してケース会議を開催し、支援方法の検討と課題の抽出がなされている。利用者の課題や要望は「ニーズ整理票」に落とし込まれている。
Ⅲ-2-(2)-③ 定期的に福祉サービス実施計画の評価・見直しを行っている。	a	個別支援計画は、年度の中期において見直しがなされている。担当者とサービス管理責任者により考察がなされており、評価の反映と修正がなされている。
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	日誌、個別支援状況日誌、医療サポート、発作記録等日々の支援の記録がなされている。具体的に・簡潔に記載するよう指導がなされている。
Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a	キャビネットへの保管、シュレッダーによる処理等適切な情報保護にあっている。情報保護規程・パソコンのパスワード設定等体制の構築がなされている。

評価対象Ⅳ 適切な処遇の確保

Ⅳ-1 サービスの実施

	第三者評価結果	コメント
Ⅳ-1-(1) 個別支援計画または個別療育計画に基づいた適切な支援について。		
Ⅳ-1-(1)-① 個別支援計画または個別療育計画を適切に作成している。	a	利用者・家族の要望を踏まえ、個別支援計画が策定されている。計画はわかりやすい言葉の使用・的確な表現が心掛けられており、特に利用者の表情を盛り込むよう指導がなされている。利用者の励みとなるような計画の策定に努めている。
Ⅳ-1-(1)-② 個別支援計画または個別療育計画に基づいて、適切にサービスが提供されている。	a	個別支援計画に掲載された目標や課題はグループで支援方法を統一し、適切な実施となるよう取り組んでいる。
Ⅳ-1-(2) 利用者の状態に合わせたサービスの実施について。		
Ⅳ-1-(2)-① 食事に関しては、おいしく楽しく食べられるよう工夫されている。	a	栄養士の管理により栄養バランス・味付け・アレルギー対応等に配慮された食事が提供されている。温かいものは温かく・冷たいものは冷たくにこだわり、利用者の楽しみとなる食事に取り組んでいる。
Ⅳ-1-(2)-② 入浴に関しては、利用者の希望や事情を反映した支援を行っている。	a	機械浴と一般浴の双方の入浴が可能となっており、見守り、操作、バイタルチェック等安全な入浴となるよう取り組んでいる。
Ⅳ-1-(2)-③ 排泄に関しては、利用者の状態に合わせた支援を行っている。	a	同姓介助・カーテンの使用等プライバシーへ配慮した支援に努めている。トイレ数の不足に対しては工夫した支援に努めているものの、今後はリネン処理の設備等の充実を検討している。

<p>IV-1-(2)-④ 整容その他に関しては、利用者の状態に合わせた支援を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>送迎時を含めて利用者の身だしなみについては留意するよう努めている。家族ともコミュニケーションをとりながら適切な対応となるよう取り組んでいる。</p>
<p>IV-1-(2)-⑤ 利用者の健康を維持するための支援を行っている。</p>	<p>a</p>	<p>月に1回の体重測定等健康管理に取り組んでいる。服薬については処方箋があるものについての支援に限られているが、今後市販薬の取り扱いについて検討している。</p>
<p>IV-1-(3) 利用者の自主性と家族との交流について。</p>		
<p>IV-1-(3)-① 利用者の自主性を尊重し、主体的に施設での生活が送れるような取り組みを行っている。</p>	<p>a</p>	<p>利用者の選択により調理、書道、アート等のサークル活動がなされている。利用者の楽しみとなっており、本施設の特長を表す活動の一つであるが、利用者の状況の変化等もあり、活動内容の見直しを要することを認識している。</p>
<p>IV-1-(3)-② 金銭管理その他利用者の財産を管理するための支援を行っている。</p>	<p>d</p>	<p>非該当</p>
<p>IV-1-(3)-③ 利用者の自立（自律）に向けた取り組みを行っている。</p>	<p>a</p>	<p>理学療法士の指導に基づき、リハビリテーション・ストレッチを含めた個別支援がなされている。転倒等に気を付けながら主体的な活動ができるよう支援に努めている。</p>
<p>IV-1-(3)-④ 利用者の就労を支援するための取り組みを行っている。</p>	<p>a</p>	<p>内職、資源回収等による活動がなされており、収益による工賃や賞与は利用者の励みとなっている。陶芸については、趣味の活動とのバランスを図り、利用者にとって最適な活動となるよう変更を検討している。</p>
<p>IV-1-(3)-⑤ 施設と家族との交流・連携を図っている。</p>	<p>a</p>	<p>連絡ノート、面談を通して希望や要望を把握するよう努めている。父母会とは利用者の最善の生活のため連携・協調し、支援に取り組んでいる。</p>